

1 研究概要

(1) 研究全体構想

<学校教育目標>

児童生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし、自ら生きる力を養い社会的に自立できる心豊かな人間を育成する。

<目指す児童生徒像>

「なかよく」 明るく思いやりのある子  
「げんきで」 いのちを大切にし、健康を守る子  
「がんばる」 自分の力を発揮し、懸命に取り組む子

【研究主題】

キャリア教育の視点を生かした指導・支援の工夫  
～「人とかかわる力」を育む～

人とかかわる経験を積み重ねる授業実践

【人とかかわる経験についての3つの視点】

- ①意欲  
意欲が高まるような状況を設定し、人とかかわる経験を積む。
- ②スキル  
児童生徒が持っているスキルを活用し、人とかかわる経験を積む。
- ③関係性  
効果的な関係性を考慮し、人とかかわる経験を積む。

【実態把握】

- ①太田ステージ  
全校児童生徒に太田ステージを実施し、共通の指標で実態把握する。
- ②人とかかわる力の構成要素表  
人とかかわる力についての実態把握を人とかかわる力の構成要素表で行う。目標設定や成果・課題の振り返りも、構成要素表を活用して行う。

学校研究の進め方

個人

【授業実践】

児童生徒の実態に応じて、人とかかわる経験を積み重ねる授業実践に取り組む。

【実践レポートの作成】

自分自身の授業実践をレポートにまとめる。

全体・学部

【対話的で実践的な研修・協議会】

全体研修・学部研究の時間に、実践的な内容について対話を積み重ねる。

【実践レポートの交流】

報告会を行い、互いの授業実践について、対話を通して交流する。

## (2) 研究主題設定の理由

本校では、昨年度まで3年計画で「授業のシンプルデザイン」という主題を設定し、研究に取り組んだ。授業のユニバーサルデザイン化の視点を活かした「授業のシンプルデザイン」を取り入れ、授業を整えることは、児童生徒はもちろん、授業をおこなう教員にとっても有効であるという結果を得ることができた。

本校の児童生徒は、「授業のシンプルデザイン」で整えた授業により、学習に取り組むことができたり、教員のはたらきかけや声かけに反応したりすることはできているが、友達に関心をもったり、うまくかかわったり、自分の思いを伝えたりすることに課題をもっている児童生徒が多い。

新学習指導要領では、障害のある子供一人一人の教育的ニーズに対応した適切な指導や必要な支援を通して、自立と社会参加に向けて育成を目指す資質・能力を身に付けていくことが重視され、小学部、中学部段階からキャリア教育を充実させることが記されている。

本校では、キャリア教育の中でも、児童生徒の実態から、人とかかわる力を育むことが重要だと考え、本テーマを設定した。

## (3) 研究計画

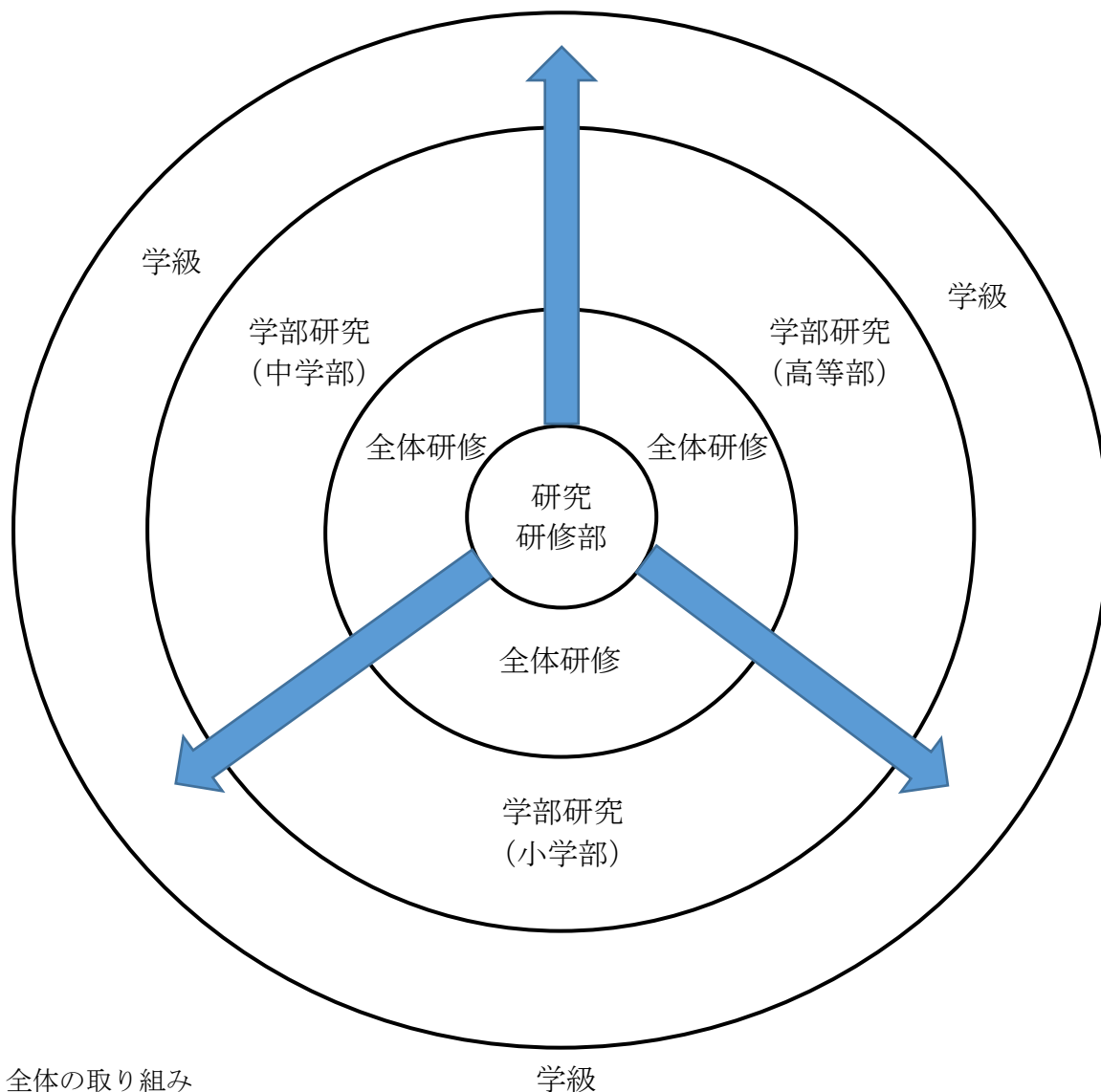
### ① 2年間の計画

年次	内容
1年目 (H30)	①「キャリア教育」「人とかかわる力」の基礎的・基本的な内容の共通理解を図る。 ②「人とかかわる力」についての実態把握、課題設定、目標設定をする。 ③実践に向けて、題材(単元)設定、指導・支援の工夫をする。 ④キャリア教育の視点を生かした指導・支援を実践し、「人とかかわる力」の向上に取り組む ⑤分析・評価をし、成果と課題をまとめる。
2年目 (H31)	①前年度の課題を取り入れて、計画を立てる。 ②「人とかかわる力」についての実態把握、課題設定、目標設定をする。 ③実践に向けて、題材(単元)設定、指導・支援の工夫をする。 ④キャリア教育の視点を生かした指導・支援を実践し、「人とかかわる力」の向上に取り組む。 ⑤研究発表を行う。 ⑥分析・評価をし、成果と課題をまとめる。

キャリア教育で育てていく力の中の“人とかかわる力”を中心に育んで行く研究のため、キャリア教育・進路指導部との連携を計画した。

### (4) 研究研修部の方針

学校研究を進めて行くに当たり、先生方が受動的ではなく、主体的に取り組んで欲しい、全教員で学校研究に取り組むことを楽しいと感じて欲しいと考えた。そのためには、対話的で実践的な研修で学校研究を進める必要があると考え、研究研修部の方針とした。教員同士が、対話を通してかかわることは、児童生徒の“人とかかわる力”を育むための一助にもなると考えた。しかし、研究研修部として使える時間は限られているため、全体研修で積み重ねた対話や得た知識等をどのように、学部研究、そして、学級での授業という日常に落とし込んでいくかを意識して取り組んだ。



## 2 全体の取り組み

- (1) 太田ステージの取り組み
- (2) 人とかかわる力の構成要素表
- (3) 全体研修

### ① 6月29日 全体研修①

全教員に向けて学校研究の概要・計画について説明した。学校研究のアイスブレイクとして、また、対話的に研修を進めていく第一歩として、「私のマイブーム」をテーマとして、ワールドカフェ形式の対話の時間を設けた。普段は、小・中・高と学部に分かれて仕事を行っているが、学校研究の研修の時間には、学部の枠を越えて対話できるよう取り組んだ。



②7月23日 全体研修②

「特別支援学校におけるキャリア教育を考える～人とかかわる力に注目して」というテーマで、埼玉大学教育学部附属特別支援学校教諭 柳澤真美先生にご指導を頂いた。下記のような内容であった。

I. キャリア教育とは

II. 特別支援教育におけるキャリア教育とは

- ・将来生徒達にどんな姿になってほしいか
    - 1、路頭に迷う人
    - 2、人の敷いたレールの上を生きる人
    - ③、自分で舵取りをして生きる人
  - 1、人と関わらない人
  - 2、人の言うことを聞く人
  - ③、様々な人と関わりを持ちながら相互に支え合い生きていく人
- ・特別支援教育においては個々の障害の状態に応じたきめ細かい指導・支援の下で行う。  
(中教審答申)
- ・埼玉大附属のキャリア教育 →将来像をそれぞれの場(家庭・職場・余暇の場)で設定し、具体化し、現実化し、自己実現へつなげる。\*ABプランは将来像に向けたプラン
  - ・小中学部も、卒後・進路の知識を ←「先」を見据えた指導のために目の前の子の今までの歩みを把握←将来は過去と現在の先にある指導の意味・意義を常に把握←その指導が将来どう生きるかを考える。

III. 人とかかわり

- ・人間形成能力 他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。
- ・ケースA 「教員に『おはよう』とあいさつをする」課題分析

手順工程の分析	機能要素(知覚・感情・思考 他)
①バスの中から教員の様子をうかがう	(先生達の表情を見て不穏な様子はないかな)
②どの教員が誰の付きなのか確認する	(あの先生は私の所へは来ない、残念)
③話しかけやすい教員を選ぶ	(あの先生と話がしたい、聞いてもらいたい)
④バスからおりる . . . . .	

あいさつするまでにたくさんの工程があり、どの部分で支援が必要なのかおさえる。

- ・ケースB 卒業生 就職後離職の経緯  
がんばる方がいい、言っちゃいけないは思い込み! 「仕事を減らしてください」「仕事を整理してください」を言ってもいい。





③ 8月23日 校内研修（自立活動） ※自立活動部との連携

「実態把握に基づく課題設定について～アセスメントツールの活用～」というテーマで、所沢おおぞら特別支援学校 自立活動部専任教諭 畠山和也先生にご指導を頂いた。本校の教員のほとんどが、太田ステージの実施経験がなかったため、学習指導要領改訂から、太田ステージの特徴やアセスメントの仕方、ステージごとの特徴・学習課題等の基本的な内容について、具体的な教材も提示しながら、ご説明頂いた。



④ 8月24日 校内研修（施設見学会・進路研修会）※キャリア教育・進路指導部との連携

進路研修会で、グループに分かれて施設見学会（生活介護、就労継続B型、移行支援事業所、発達支援事業等）を行った。その後の学習会では、見学報告会や卒業後の進路説明会に加え、「キャリア教育の視点から～どんな力をつけさせたいか～」というテーマでグループワークを行った。このワークでは、人とかかわる力を中心に、何歳頃、どんな力をつけさせたいかを各グループで話し合い、発表した。



⑤ 8月31日 全体研修③

「人とかかわる力を育む授業づくり」というテーマで、埼玉大学教育学部附属特別支援学校教諭 柳澤真美先生にご指導を頂いた。下記のような内容であった。

I. 授業作りのポイント（埼玉大学附属特別支援学校の実践研究）

- ・児童生徒の実態を踏まえて「めざす社会参加の姿」を決め、それを目標に授業を進める。

例) 主体的に役割を担う

小学部→手伝いや、係の仕事にすすんで取り組もうとする。

中学部→自分で選択したり、引き受けたりした集団の中での役割をやり遂げる。

高等部→自身と社会人としての自覚をもって積極的に行動する。

※各学部の中でも第1傾向～第3傾向まで細分化するとより良い。

《実践1》各傾向の生徒がバランスよくいる6人グループ（レクリエーション活動）

- ・第3傾向→リーダー指導
- ・第1傾向→教員の支援が必要

《実践2.3》関わる相手が明確に設定された集団（二人組）

- ・実践2：体育、運動会種目
- ・実践3：体育、バランスボールエクササイズ、  
→関わる相手を明確にしたことで第1傾向の生徒が第3傾向の生徒を探すようになった。

## II. 人との関わりをはぐくむ授業を考えよう

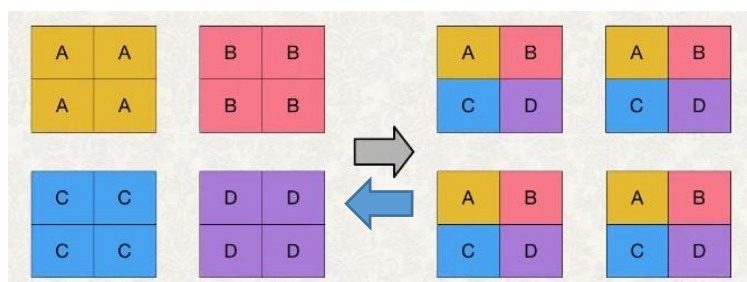
- ・各ステージの児童生徒の「人とかかわる」目標、めざす姿を考える。  
→授業内容、構成をまず置いておく。  
→生活年齢を加味する。  
→人と関わる機会を増やす。

### 例) 中学部 職業・家庭Bグループ

- ・分担を自分たちで決める。 ・新聞紙を事務室に取りに行く。 など

### ⑥10月16日 全体研修③

太田ステージのステージごとの特徴について確認した後、中学部の職業・家庭の授業を事例児を中心に7分程度に編集した動画を全教員で見た。その後、小グループに分かれて、ホワイトボードに協議の内容を記入しながら、①人とかかわる力を育む指導・支援について良かった点、②改善点等について協議した。小グループの話し合いは、3ラウンド行い、1ラウンド目は、最初の4人グループ、2ラウンド目は、シャッフルした4人グループ、3ラウンド目は、最初の4人グループという流れでメンバーを変えながら進めた。



小グループでの対話、学部を越え

《1、3ラウンド》

《2ラウンド》

たメンバーのシャッフル、対話の内容をホワイトボードに記入して可視化すること等の要素を取り入れたことで、下記のような意見がアンケートに記入された。

- ・グループ内で良い点改善点を話し合った後、他グループと混ざり他グループでの話し合い内容が知れたことがとても良かった。
- ・他学部の教員が授業について意見交換することは学ぶことも多く良かった。
- ・対話があるので学びがある。校内でこのように話し合う研修が良かった。
- ・限られた研修時間の中で上手に分かりやすくプログラムを構成準備されていたことに感動した。また、編集したものではあるが、実際の授業を全教員で見て、話し合ったことで、
- ・映像を見てから研究協議をすることで、人と関わる力について考えやすく、話し合いが充実した。
- ・どのような視点で人と関わる力について考えれば良いか分かってきた。
- ・人と関わる力を育むためにどんな取り組みをすれば良いか想像が付いたので良かった。
- ・今後の方向性が分かりやすく、理解できた。

等の意見がアンケートに記入され、対話を重ねることで、授業のイメージができていいることを実感した。



⑦ 10月29日 校内研修（自立活動） ※自立活動部との連携

「個別の課題学習の考え方と指導の実際」というテーマで、所沢おおぞら特別支援学校 自立活動部専任教諭 畠山和也先生に8月に引き続き、ご指導を頂いた。アセスメントの太田ステージの結果から、どのように課題や目標を設定し、個別の課題学習を行っていくのかを、自立活動を中心に、具体的な映像を見ながら、研修に取り組んだ。

研修内容が実践的で、ここで紹介された指導・支援の方法をすぐに実践する教員もいた。



⑧ 2月19日 全体研修⑤

教員一人一人が1年間の実践をまとめた実践レポート（資料②）を持ち寄り、実践レポート報告会を行った。最初に、サークルでチェックインや流れの説明をした後は、担当児童生徒の太田ステージ別に分かれて、実践レポート内容の発表、それぞれのステージで有効だった指導・支援について話し合い、まとめた。その後、他のグループの話し合いの内容を聞く時間を取り、最後に、群馬大学教育学部 教授 霜田浩信先生よりご指導頂いた。

学部を越えての太田ステージ別の小グループ、継続してきた対話の積み重ね、話し合いの共有時間の確保等の要素を取り入れたことで、下記のような意見がアンケートに記入された。

- ・太田ステージ別の小グループで話し合うことで曖昧だった支援が明確になった。
- ・ステージごとに集まると実態に共通部分があり共感できた。
- ・他のステージの話を書くことで比較でき、自分のステージのことがより理解できた。
- ・ステージによる課題の違いが見えた。
- ・お互いの意見や実践を報告し合うことで紙ベースでなく実際に話が聞けたのが良かった。

改善点に関する意見も記入されたが、前向きに捉えた意見が多かった。実践に関する対話の積み重ねが浸透してきていることを感じた。





### 3 学部の取り組み

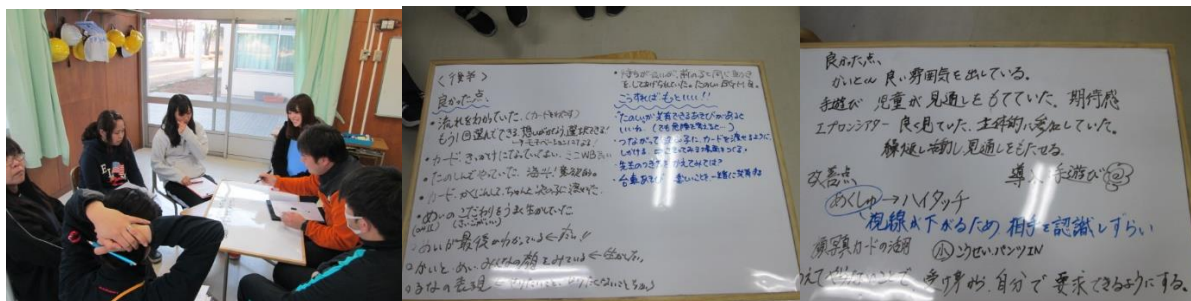
9月から月に1時間程度、学部研究の時間を設定し、学部ごとに指定した授業（小学部は遊びの指導、中学部は職業・家庭、高等部は生活単元学習）の計画や振り返り、学部内研究授業・協議会等などに取り組んだ。具体的に以下のようなことに取り組んだ。

#### (1) 小学部の取り組み

##### ①授業の振り返り・次時の計画



##### ②学部内研究授業・協議会



#### (2) 中学部の取り組み

##### ①職業・家庭の授業作り

##### ②学部内での研修会

#### (3) 高等部の取り組み

##### ①生活単元「劇を発表しよう」授業作り・振り返り

##### ②学部内研究授業・協議会

高等部3年生の生活単元「卒業制作」の授業について授業研究・協議会を行った。授業を撮影し、対象生徒中心に5分程度に編集した動画を見ながら、全体研修で設定されたテーマ①人とかかわる力を育む指導・支援について良かった点②改善点について協議した。対象生徒が友達からの言葉を受け止めているのか？気付いていて知らんぷりしているのか？どうすれば受容できるのか？・・・対象生徒が絞られていたため、話し合うポイントも明確で、各グループの対話の中で様々な意見が飛び交い、活気あふれる協議となった。



### 4 校内研究授業・協議会の取り組み

#### (1) 校内研究授業

埼玉大学教育学部附属特別支援学校教諭 柳澤真美先生に参観して頂き、各学部で研究授業を行った。それぞれの学部ごとに前半参観チームと後半参観チームに分かれ、全教員が授業の半分は参観できるようにした。

##### ①小学部 遊びの指導 単元名「むかし遊びでなかよくなるよう」





② 中学部 職業・家庭 単元名「電子レンジでレトルト食品を温めよう」



③ 高等部 生活単元学習 単元名「ポジティブ・ゴルフ」



## (2) 協議会

研究授業を行った日の放課後、研究授業についての協議会を行った。各学部で、前半参観チームと後半参観チームに分かれ、①人とかかわる力を育む指導・支援について良かった点、②改善点、③指導者の先生への質問について協議を行った。その後、それぞれのグループの協議内容を学部ごとに発表し、情報共有をした。







## 5 研究研修部の取り組み

対話的で実践的な研修で学校研究を進める必要があると考えた研究研修部では、限られた全体研修や学部研究の時間以外でも、対話を促進する取り組み、実践的な情報を提供する取り組みはできないだろうか考えた。研究研修部が本年度取り組んだのが「研究だより」の発行である。内容としては、①学校研究に関連する情報発信、②全体研修の内容をまとめたレポート、③本校教員にインタビューをする「めざせ！プロフェッショナル ○○の流儀」である。①②については昨年度までも取り組んで来たが、対話や校内での学び合いを促進するきっかけづくりとして③に取り組んだ。(資料③)インタビュー内容のため、文字数は多くなってしまいが、読んで頂くため文章の構成や内容を工夫しながら取り組んだ。

アンケートにも、

- ・ 研究だよりが楽しい。特にプロフェッショナルはベテランの先生方の話が聞けて勉強になります。
- ・ 今年の学校研究は、先生方といろいろ話し合える機会がありよかった。また、太田ステージからとらえたのはとてもわかりやすく、続けていくと良いと思う。研究便りも興味深い。 今までいろいろな学校でやってきた研究の中でもトップクラスの良い研究だと思った。企画力はすごいと勉強になった。
- ・ 研究部の丁寧かつユニークな提案(研究便り含め)のおかげで全職員が一緒に研究に取り組んでいる状況が作られていた。

というコメントを頂いた。

# 研究だより

平成30年9月26日  
富士員特別支援学校  
研究研修部 No.2  
文責：小澤

こんにちは。ダイエット開始1ヶ月目の結果は、約-3kgだった小澤です。今回の研究だよりでは、新企画「めざせ！プロフェッショナル ○○の流儀」をお届けします。この企画は、校内の先生方にインタビューし、これまでのキャリアや仕事観、授業実践などについて、お伝えするものです。今、校内で行われている授業実践や書え方などを知ることで、授業についての対話を増やしたり、学び合ったりできたらと思っています。第1回目は、小学部の對馬先生にインタビューしてきました。ぜひ最後までお読みください！

**めざせ！プロフェッショナル 對馬の流儀**

**對馬 志津**

今日は、よろしくお願ひします。話を聞けるのを楽しみにしてました！

第1回ってことで、方向性がまだ見えなくて・・・不安なんですよね。

最初は不安ですね。一緒に企画を作っていく気持ちで、宜しくお願ひします！それでは、インタビューを始めたいと思います。

では、最初に、對馬先生のこれまでのキャリアについて教えてください。

はい。大学卒業後、地元の岩手の教員採用試験を受けて、初任者として3年間、知的特別支援学校で働きました。最後の1年間は今のような重複学校を担任しました。結婚を機に埼玉の教員採用試験を受け直し、該体の和光特別支援学校で専任・産休後の9年間働きました。その後、知的に行きたいと思っていましたので、まだ該体の川島ひばりが丘特別支援学校で5年働き、富士員特別支援学校に異動して2年目です。

特別支援教育にかかわるようになったきっかけは何ですか。

大学は心理学科だったんですけど、当時の重複学校の免許も取れると言われ、授業を取っていたら、おもしろかったし、友達に、重複学校の子供たちと遊ぶボランティアサークルに誘われて、参加してみたら、それもおもしろかったです。もともと、自分が病気がちな子供だったので、身体の弱い子や不自由のある子たちとかかわりたいという想いもあったので、この道に進もうと思うようになりました。

では、これから希望通りにキャリアを歩んで来ているんですね。

そうですね。やりたいことを仕事にしたい感じですね。

仕事の中で、どんな時にやりがいや楽しさを感じますか。

ふとした時に、子供のできるようになったことを見つけた時ですね。よかったですねという気持ちになるんです。あとは、同僚と子供の様子について話したり、相談したりする時ですね。子供の成長や特徴を見つけて、話すのは最高に楽しいですね。

そのことについて、何かエピソードがあれば教えてください。

いっぱいありすぎて・・・このクラスで言うとA君の成長がすごくて、その話をよくします。今日も、A君が「お願ひ」と言ってきたことがあって、「かわいいね。」「おもしろいね。」「すこいね。」と担任同士で話していました。

日々の仕事でここがけていることは何ですか。

子供が楽しいと感じられるようにしたいから、まずは大人が楽しくなるようにしよう！楽しい空気にしよう！とここがけて仕事しています。

そのことについて、もう少し詳しく教えてください。

例えば、朝の会でも、子供に興味をもって欲しいから、ちょっとおもしろくします。子供や先生のおもしろいことがあると、共有したり、機嫌をそららに合わせるような声をかけたりします。子供に「なんだろう？」って聞わせるような空気にしたいと思っていますんですけど、私が楽しくなりすぎちゃって、一人で楽しんでいる時もあります。とにかく楽しくありたいんです。教員同士も、仕事は楽しくないけどやっていけないって思っています。

逆に大変だったことは、どんなことですか。

この学校での話ではないんですけど、どうしても仲良くならない同僚と組んだことですね。(笑)

どうやって、その1年間を乗り越えられましたか。

うまくいかない人と仲良くしないという訳ではなくて、担任が複数だったので、他の担任と協力したり、フォローし合ったりしました。そういう先生がいたから、乗り越えられたんだと思います。

同僚とかのかわりも大切にされてきたんですね。では、同僚が経験されてきた對馬先生から見て、この学校の良さは何だと思えますか。

教職員全員がよく働くところだと思います。異動してきたときから、そう思っています。自分の仕事に責任を持って取り組んでるんですよね。小さい学校だから、こうしたい！ということがあれば、スピードに動けるのも、いいなと思っています。

※貴重な話を頂き、インタビュー内容を1枚にまとめることができませんでした。続きは、次号にてお届け致します。学校研究についてお願ひをいたします。続・・・

**編集後記**

今年度も、昨年度も、對馬先生のクラスは、担任同士の対話の量がとても多いと感じていました。その裏には、まずは、教員が楽しむ！楽しくある！という流儀があったんだとインタビューから分かりました。続きもお楽しみに！！